

重点施策	文化財の保護・活用の推進	評価実施者	所 属	社会教育課
		職・氏名		課長・竹谷和徳

重点施策の概要	目的	市民の財産である指定文化財を保存するとともに、それらを活用した講演会などの事業に取り組むなど、後世に文化財の魅力を伝える語り部の育成に取り組む。
	今年度の主要事業	新たに指定文化財となった「太郎吉蔵」の活用

事業の目標と実績	区 分		単位	H21	H22	H23	特記事項
	1	指定文化財登録数	目標 実績	件	6	7	
2	指定文化財入場者数	目標 実績	人	3,787	5,008	8,000 7,319	華月館 H21 796人、H22 769人、H23 534人 屯田兵屋 H21 135人、H22 200人、H23 187人 太郎吉蔵 H21 2,856人、H22 4,012人、H23 6,598人
3		目標 実績					
4		目標 実績					
5		目標 実績					

事業の分析効果の検証	・太郎吉蔵を活用し、北海道大学大学院研究員助教の池上重康さんを招き、北海道の歴史的石造建造物についての講演会を開くなど、身近な文化財への関心を高めた。
課題	・華月館、屯田兵屋、牧羊用石造りサイロなど計画的な改修が必要。

評価	A	<p>評価の視点1 期待どおりの効果があったか これまでも市民の発表の場として太郎吉蔵が活用されていたが、市指定文化財になったことで、市民により関心をもつ機会を提供したと評価する。</p> <p>評価の視点2 施策の目的を達成するため、事業見直し等の余地があるか 市民力を生かしながら、文化財保護・活用の動きを今後も進めるとともに、改修についての対応を急ぎたい。</p>
-----------	----------	---

【評価の区分】

- A: 期待どおりの成果が得られ、今後も事業を継続する
- B: ほぼ期待どおりの成果が得られたが、さらなる発展のため事業を見直す余地がある
- C: 概ね期待した成果は得られたが、事業の見直しが必要である。
- D: 期待する成果が得られず、廃止も含めた見直しが必要

事業の今後の方向性	文化財を活用した市民活動を今後も支援し、新たな文化財指定に向けての調査を進めるとともに、既存の文化財建造物の保護のあり方について方針を固めたい。
	<input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 縮小・統廃合 <input checked="" type="checkbox"/> 質的向上 <input checked="" type="checkbox"/> スピードアップ <input type="checkbox"/> 検証 <input type="checkbox"/> 継続

◎外部評価委員の評価・意見等

点検・評価に関するコメント	計画的な改修など、これからも期待したい。
----------------------	----------------------